

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 山ノ内町立西小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒381-0405
長野県下高井郡山ノ内町夜間瀬 2504-1
E-mail nishisho@valley.ne.jp
Website http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/kyoiku/nishisho.html
幼児児童生徒数 男子 71 名 女子 71 名 合計 142 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「ふるさとを愛し、慈しみの心と未来を切り拓く力を育てる学校」を学校理念として、ESD を「持続可能な社会の作り手となることを期待される児童の生きる力を育む教育」と捉え、ESD の実践を通して集める力・まとめる力・伝える力の育成を目標とした。

具体的には、エネルギー・環境、地域学習、健康・福祉を柱に、①環境に係わる活動、②食育に係わる学習、③ふるさとに伝わる文化・歴史や自然に係わる学習、④健康・福祉に係わる学習を行った。

① 環境に係わる活動

全校が縦割り班 (異学年集団) に分かれて地域内にあるドンダリの森公園までゴミを拾いながら歩き、ウォークラリーや木工工作、ネイチャーゲーム、森の土の水浸透実験などを行った。森林や緑の大切さに関心を高めることにつながり、森林の持つ役割 (防災、癒やし、生き物多様性など) についても学ぶことができた。

② 食育に係わる学習

社会科の単元「わたしたちの生活と食料生産」にリンクさせて自分たちも米作りをしようと地域の方に支援をお願いして収穫までの体験ができた。その中で稲作作業の大変さを感じ取るとともに、現在の日本の置かれている後継者問題や世界的な食糧問題、また水田が作る環境から生物多様性についての課題を見つけることができた。

③ ふるさとに伝わる文化・歴史や自然に係わる学習

地域に伝わる民話が生まれた場所で語り部の方からその民話を聞くことによってふるさとのお話に思いを馳せ、膨らんだイメージを絵に表したりお年寄りとの交流で発表したりして発信力や表現力の育成につながった。

④ 健康・福祉に係わる学習

国語の単元 4 年「手と心で読む」に関連させて視覚に障がいのある方と交流することで、「出会う→気付く→問題意識をもつ」といったステップをふめるようにして、相手の立場や気持ちになって考え、行動するにはどうしたらよいかを考えさせることができた。また、同じようにお年寄りとの交流も重ねることで思いやりの気持ちを育てることができた。



① 縦割り班でのウォークラリー



② 米作り(人力による代掻き)



③ 民話を語り部から聞く



④ 視覚障がい者を音楽会に招待しての交流

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ <http://yamanouchi-kids.com/> みんなで作る山ノ内キッズ BOOK
- ・ 「ウェルネスすがかわ 民話の里めぐり 民話集」 同パンフレット
- ・ <https://www.facebook.com/shiga.highland.br/> 志賀高原ユネスコエコパーク
- ・ 「生まれ変わった堰」「竣工記念誌 依水當山」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・教育課程全般の見直しを行い、ESD の視点で学習内容を決めだし、ねらいやつける力を確認しながら問題解決型の教育課程を編成できるようにしてきた。
- ・学年別の ESD カレンダーを作成することで教科横断的な指導計画になるようにするとともに、教科・領域間や総合的な学習・生活科と関連づけながら計画や実践を進めていくように努めた。また、全学年を網羅した ESD カレンダーを作成して全体像を見ることで発達段階に応じてつける力を確認しながら教育課程の編成に努めた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ESD カレンダー作成のために学年前後の関連を見ながら連学年会(1・2 年、3・4 年、5・6 年)を定期的に設け、情報交換や次年度に向けての修正や改善をしてきた。
- ・外部団体からの参加要請に対しては、機械的に学年に割り振るのではなく、参加や取組のねらいが ESD 活動に適合しているかを見定めて該当する学年に対応してもらうようにし、過度な負担にならないようにした。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・学校運営委員会を年3回開き、学校活動に対する率直な評価(意見、要望、提案等)をしてもらった。
成果・・・①二校が統合された一年目であったが、前年度から交流授業や共通の学習教材による学習や体験・見学等を行ってきたので、統合後の4月からスムーズに学習を進めることができた。
課題・・・①天候に左右されて時期を逃してしまった学習もあったので、時期の検討も必要だ。②ボランティアや講師派遣など外部からの手助けを借りながら進めていく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- ・学級だよりや学校だより「ユネスコスクールでの取組」の様子を写真入りで掲載し、保護者の方々に学級や学校での取組を発信した。また、統合だよりにも活動の様子を載せ、地域の方々にも児童の学習の様子を発信した。
- ・児童が校外に出て ESD 学習で活動しているときに声をかけてくださる方がいたり、町の広報誌に掲載してもらったりして学校の取組が広く知られるようになった。
- ・山ノ内町のホームページに学校の活動の様子を載せ、町のユネスコエコパーク（志賀高原）の取組とともに町内外に発信できた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・「信州 ESD コンソーシアム」に所属し、「中部地方 ESD センター」から研修会への講師派遣の援助や教員の北信越ユネスコスクール交流会、第 9 回ユネスコスクール全国大会への参加援助をしてもらった。また、2 月の信州 ESD コンソーシアム成果発表&交流会では、5 学年が「わたしたちの米作り」という題で ESD 学習を通して学んだことを発表した。発表後の講評で自信に満ちあふれている発表だったこと、多方面に課題意識が持てたことに対して評価してもらうことができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ・同じ山ノ内町内の小中学校と情報交換を行ったり、合同研修会を開いたりした。児童生徒間の直接的な交流はなかったが、中学校体験訪問の折に廊下に掲示してある山ノ内中学校のユネスコスクールとしての取組を見せていただくことができた。
- ・将来的には同じ町内だけでなく、他市町村・都道府県の小学校とユネスコスクール活動について SKYPE などを利用した遠隔テレビ会議での報告会や写真・カードの交換などができないかを研究中である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- ・ 今までの年間指導計画を ESD の視点から見直してみるにより、教科・領域と総合的な学習の時間・生活科と関連づけた単元展開を構築することができ、それぞれの活動にかけられる時数をより効果的に計画することができた。
- ・ 今まで一方向からの視点で物事を見るが多かった児童が、社会科での学習の発展活動である米作りの体験を通して、日本の雇用労働問題や農業への後継者問題、世界の食糧問題など多方面に向かって課題意識を持つようになった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

- ・ 校内重点研究による ESD 学習の研修
外部講師を招いての授業研究を行い、より ESD 学習について理解を深めると同時に実践に結びつけていけるようにする。
- ・ ESD カレンダーの充実と一年間の活動の見通しが持てるようなストーリーマップ(単元展開)の作成のための研修をする機会を持ち、学校全体で ESD 学習を進めていく体制作りを行う。
- ・ 町内小中学校との積極的な交流を行っていくと同時に、校内だけにとどまらず広く保護者や地域に向かって自分たちの行った活動の発表する機会を設けて「伝える力・発信する力」を育てていく。また、他地域のユネスコスクールとの交流の方法について研究していく。